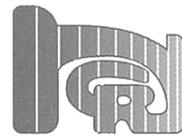


フィリア・レター

～ 真の友人からの手紙 ～



発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>



病院機能評価に向けて

事務局長 久保 隆滋

この4月から事務局長として当院に赴任しました久保と申します。

「ろうさい病院」はグループ病院でして、全国に32の病院を展開していますが、事務系職員の多くは私のように全国各地を転勤しながら働いています。私は当院で9回目の転勤(6病院目)であり、名古屋勤務は初めてです。開院以来55年間、地域に根ざし地域の皆さんによって育まれた「中部ろうさい」の良いところを大切に、皆さんと同じ目線に立って、「医療の質」や「病院機能」の向上、時代の要請にあった病院作りを進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、当院では毎年目標を立てて病院運営を行っておりますが、今年目標の一つに「病院機能評価の認定」を掲げています。これについて、少しお話をさせていただきます。

この「病院機能評価」というのは、「病院が患者さんに良質な医療を提供しているか」という視点で「日本医療機能評価機構」という第三者機関が病院の評価を行い認定するものです。申し込みは病院の自由意志であり、認定の効力は5年間です。現在、日本全国で約2,600の病院(日本の全病院数は約8,700です。)が、名古屋市内では45の病院(港区では当院だけ)がこの認定を受けています。5年前に初めて認定を受けた当院は、今年9月に更新時期を迎え2回目の審査を受けます。現在、この審査に向けてチームを組み、病院一丸となって「当院が果たして患者さんに対して良質な医療を提供しているか」について点検・見直し作業を続けています。

病院の中では、医師をはじめとして看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、リハビリテーション技師、栄養士等の実際に医療を行う人たちと、

それを側面から支える事務、電気・ボイラー技士、清掃等のいろいろな職種の人たちが、役割を分担し「協働・協力」して患者さんの診療のために昼夜働いています。安全・安心という言葉を胸に刻み、二重三重のチェックを行いながら患者さんの診療にあたっています。

しかしながら、これら多職種からなる職員のコミュニケーションが良くないと、患者さんの治療に集中する強い力を生み出せません。そうすると、患者さんにご迷惑をかけるばかりか、まかり間違えば命にかかわる事態を招きかねません。審査では、病院内で働く人たちのコミュニケーションがしっかり取れているか「チームとしての総合力」が問われます。実際には、審査に向けた準備作業を通じて、各職種の人たちがよく議論を重ね、お互いに理解し合い、コミュニケーションが深まり、「総合力」が高まるという上手い仕組みになっています。

審査を終えた暁には、地域の皆さんにより一層良質な医療を提供できるような病院を目指して努力してまいりたいと思っております。審査に向けた準備作業は8月が佳境となります。有名な名古屋の暑い夏が、もっともっとヒートアップしそうです。

最後に、皆さんに「お願い」が1点ございます。

医療の質の向上のために、病院では多くの看護師を必要としています。このため、いずれの病院でも看護師不足が生じています。当院は看護学校を併設していますが、それだけでは看護師は足りない状況にあります。つきましては、患者さんのお知り合いで心当たりの看護師さんがおられたら是非ご紹介下さい。もし、ご紹介いただける場合には、お近くの職員までお声をかけていただければ助かります。「切に」お待ちしております。

これから夏本番です。お体にはくれぐれもご留意され、こまめな水分補給をお忘れなく。

今月号のお知らせ

①病院機能評価に向けて

..... 事務局長 久保 隆滋

②塩分制限について

..... 第二循環器内科部長 植谷 忠之

③治験について

..... 主任薬剤師 田中 章郎

④外来師長になって思うこと

..... 外来師長 佐藤 信枝

④編集後記



塩分制限について

第二循環器内科部長 植谷 忠之

塩に含まれるナトリウムという元素は人間の体にとって必要不可欠な物質なのですが摂りすぎる事により体に水分が貯まってむくみの原因となり、高血圧や心臓病が悪化する原因となります。特に日本人の食生活は塩分を非常に摂りやすくなっていて塩分制限は高血圧の治療には必須と考えられています。

心臓病で入院された方の血圧が塩分制限(入院中は6g以下に制限されます)だけで外来時の血圧よりかなり下がる事が日常よく見受けられます。

塩分の量は高血圧の方では重症度にもよりますが1日6~8g以下にする事が推奨されています。高血圧のない方でも10g以下が理想的です。軽症な高血圧の人は減塩だけで血圧をコントロールすることが可能な場合があります。

現在、包装食品の栄養成分表示は食塩ではなくナトリウム(Na)表示にするよう義務づけられています。Na表示の単位が「g」

の場合、大体2.5倍すると食塩量に換算することができます。カップ麺でもスープまで飲むと1日6g未満の目標とほぼ同じ量の食塩になります。

ラーメン・うどん・そばなどの外食は非常に塩分が多いため外食を控えるだけでも減塩できる事になります、また麺類の汁は決して飲まないことが大切です。

血圧を下げるために塩分の制限をすると、どうしても食べ物がうす味になります。うす味にすると食事がかなり物足りなくなる訳ですが、唐辛子などの香辛料を利用する、食材の味を生かすようにする、かつおぶしや昆布などのダシの味を利用する、酢やレモンなどの酸味を利用するなどの方法で克服する事が可能です。基本的には和食と比較し洋食の方が塩分が少ない傾向にありますが、食パン・菓子パンなどにはパン生地に塩分がかなり含まれており注意が必要です。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい」病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。



薬剤師



治験について

主任薬剤師 田中 章郎

治験(ちけん)とは

新しい薬が世に出るまでは、いくつかの段階の実験や試験をクリアし、科学的な効果や安全性が立証されなければなりません。最終的には対象となる患者さまに一定条件のもとで使用していただき、病気に役立つかどうかを調べていきます。これを「治験」といいます。治験は薬の承認を得るために必要不可欠な試験であり、現在役立っている薬もこの段階を踏んで承認されたものです。

治験へのご協力について

現在、世界中で数多くの薬が使われていますが、いまだに有効な治療薬がない病気も多くあります。これらの病気に対しては効果のある新しい薬の開発が必要です。

当院では安心して治験にご参加いただけ

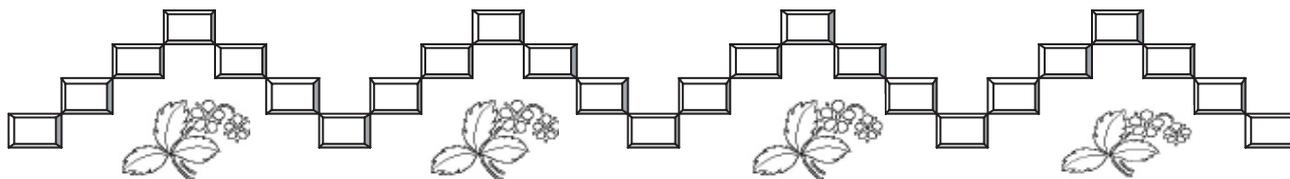
るように活動しておりますので、新しい薬を世に送り出すために是非ともご協力をお願いいたします。

実施状況：患者さんを対象とした第2～4相試験の治験を実施しており、年間約300～400名程度の入院・外来患者さんにご協力いただいています。

実施方針：当病院で実施する治験には専門医・歯科医の他に治験コーディネーターと呼ばれる専属のスタッフが関与しスケジュール管理、患者さんのケア等に取り組んでおります。

治験実施分野：内分泌疾患、腎疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、免疫疾患、眼疾患、皮膚疾患、精神神経疾患、泌尿器疾患、小児疾患など

★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。



外来師長になって思うこと

外来師長 佐藤 信枝

中部労災病院の外来は1日約1500人、多い時には1800人の患者さんが来院されます。待合室では椅子が足りないことや、お待たせしていることが多く、ご迷惑をおかけして本当に申し訳ありません。医師・看護師ともにできるだけ時間通りに診察できるよう努力してまいります。

当院の外来はとても広く、目的の外来窓口や検査室の場所がわからずよく尋ねられます。今まで病棟勤務だった私も、最近やっとどこにどの診療科があるのかわかってきました。ですから患者さんの気持ちがよくわかります。上を向いて院内表示を見ながら歩いている方には声をかけるようにしていますのでご遠慮なくお尋ねください。

私たちは患者さんに安心して診察を受けることができるよう日々努力しています。そこで診察を受ける際にみなさんにお願いがあります。患者誤認(間違い)

防止のために、診察室に入るとき、注射などの処置のときには、お名前をフルネームで名乗っていただいています。どうぞご協力をお願いします。

また、外来では専門的な分野の研修を受けた認定看護師が活躍しています。前回のフィリアレターでも紹介されましたが、皮膚・排泄ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師・緩和ケア認定看護師等が活躍しています。看護の立場で専門的な診察や処置、指導などを行っています。困ったことがあればいつでもご相談ください。

私たち外来看護師は安全で信頼される看護を提供するよう努力しています。病院に來られた患者さんに丁寧な対応に心がけ、気持ちよく診察を受けられるよう頑張っていますのでこれからもよろしくお願ひします。

編集後記

暑い名古屋の夏が始まった。

さて、当院の敷地内全面禁煙が実施されてから4ヶ月目に入ったところだが、患者さん等の理解及び協力により敷地内で喫煙される方を殆ど見られなくなった。しかし、病院前バス停及び病院周辺の路上には吸い殻のポイ捨てが目立っている。喫煙者の吸いたい気持ちは分かるが、モラルと常識をもって携帯灰皿の利用等をお願いしたい。

※病院周辺の環境美化にご協力を！

(E. T)

